

ステークホルダーからのメッセージ

日頃のCSR活動を通じてお世話になっているステークホルダーのみなさまより、日本ユニシスグループの取り組みに対するご意見・ご要望を頂戴しました。

社員一人ひとりが、最適な働き方を見つけられるように



社団法人
日本テレワーク協会
古矢 真義 様

日本ユニシスグループとの関わり
日本テレワーク協会での分科会活動を通じて、テレワーク推進に向けたアドバイスをいただくとともに、最新動向について情報交換を行っています。

日本ユニシスグループの在宅勤務／テレワークの取り組みにおいては、実際に利用されている方にとって家庭生活の面でストレートに効果が表れており、「ワークライフバランス」が実現していると思います。また、本報告書の座談会のなかで、在宅勤務制度を定着させていくうえで「組織長にとってもメリットが感じられるようにする」ことが重要との指摘にはとくに共感しました。

今後のさらなる定着に向けた課題としては、管理職も在宅勤務制度を活用できるような働き方を考えていくことが大切で、管理職・上司の方も体験してみるべきではないでしょうか。制度のあり方としても、「場所」「時間」「就業形態」のそれぞれに多様な選択肢ができ、社員一人ひとりが、その人に最適な働き方を見つけられるような環境を作り出してほしいと思います。また、CSR報告書などを通じて在宅勤務の取り組みについて社外に発信することが、ほかの会社にとって在宅勤務やテレワークに踏み出すきっかけになることもあり、このような情報発信も重要なCSR活動であると考えます。

CSR活動に根ざす「母性愛」と「共生の意識」



川島成道音楽事務所
熊谷 知子 さん
(夫：ヴァイオリニスト 川島成道さん)

日本ユニシスグループとの関わり
日本ユニシスグループは、川島成道さんの音楽活動を、1998年のデビュー以来、支援しています。

日本ユニシスのみなさまには、川島成道のデビュー以来、コンサート活動を中心にさまざまな形でご支援いただいております。ご協賛いただいたコンサートにおいては、参加者、社員スタッフのみなさまの喜んでくださる様子が私たちにとっても大きな励みとなっています。また、コンサートに向けた準備などの場面でも、社員の方々の細やかな気配りや温かさをいつもありがたく感じています。

CSR報告書を読ませていただきもっとも印象的であるのは、社員の方々が会社を誇りに感じておられる点です。CSRが普及し、技術力や競争力だけでは立ち行かない現在の企業活動のなかで、日本ユニシスのみなさまの活動には「母性愛」や「共生の意識」というものが根づいており、だからこそ、社員の方々が会社を心から好きでいられるのだと思います。

音楽もICTも、ともに人々のいきいきとした暮らしを支えていくためのものであると考えます。日本ユニシスにはこれからも、社会における「共生」に向けた具体的な取り組みをリードしていただきたいと思います。

昨年の報告書 (CSR報告書2008) に対する評価について

外部からの評価 (お客さま、NPO法人など)

コメント (抜粋)

- さまざまな情報がわかりやすく記載されており、日本ユニシスが幅広くCSRをとらえていることがよくわかる。
- 今後もバランスの取れた活動を続けていくこと、バランスの取れたメッセージ発信をしていくことを期待しています。
- 内容的にやや総花的な印象があり、活動の方向性が、ややわかりにくいのではと思う。日本ユニシスのCSRの定義づけと各パートへの関連性をもっと明確になっているほうが望ましい。
- 協力企業との関係についての記述をもっと取り入れたほうがよい。

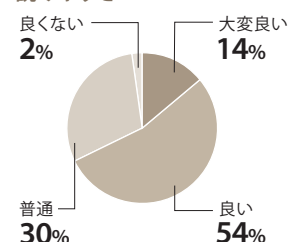
社員の評価

コメント (抜粋)

- 「人」がクローズアップされていること、とくに、お客さまと当社側の「人」が一緒に出てくるのが、とてもよいと思いました。
- お客さまからのご意見は励みになります。じっくり読み込んで、お客さまとの会話を楽しみたいと思います。
- 品質に関する内容を盛り込むべきではないか？

社員アンケートの回答

読みやすさ



これからも変わらず密な連携を



新型インフルエンザ・コンサルタント
医学博士

外岡 立人 様

日本ユニシスグループとの関わり
新型インフルエンザ対策において、外岡先生の発信されている最新情報を継続的に参照しています。また、日本ユニシスグループのユニアドックスは、外岡先生のWebサイト「鳥及び新型インフルエンザ直近情報集」※の更新・運営をサポートしています。

日本ユニシスグループは、2008年に新型インフルエンザの「流行ウィルス被害レベル別施策」を取り入れている。また同年10月、日本ユニシス北海道支店で新型インフルエンザに関して講演する機会があったが、新型インフルエンザを取り巻く状況と問題点についての社内啓発を含め、早くから企業としての対策を進めてきている印象を持っている。2009年4月からは、日本ユニシスに、私が主宰するWebサイト「鳥及び新型インフルエンザ直近情報集」のスポンサーとなっていていただき、ユニアドックスとともにサイトを全面的に管理していただいている。同年4月下旬からインフルエンザA(H1N1)が世界的に流行し始め6月にパンデミックに至った経緯があり、当Webサイトは、自治体関係者、医療関係者、マスコミ関係者、企業関係者、および一般市民から多くのアクセスがあり、社会的に新型インフルエンザ情報を発信する重要な役割を国内で担っていると自負している。日本ユニシスグループには今後も引き続き、協力をお願いしたいと考えている。

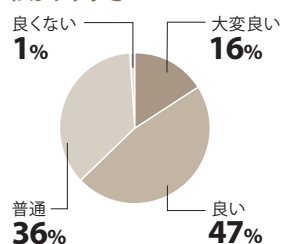
※ <http://nxc.jp/tarunai/>

古矢様からご指摘いただいたように、テレワークの導入においては、「会社にとってのメリットを考えながら個人の働きやすさにもつなげていく」という発想が重要だと思います。熊谷様よりいただいたメッセージからは、さまざまな活動をとおして“社会との共生”を図っていくことの大切さを改めて気づかせていただきました。また、外岡先生が無償で提供されている新型インフルエンザ情報のWebサイトを、いつも参考にさせていただいていますが、インターネット上の情報発信を通じた社会への貢献という観点からも多くのことを学ばせていただいています。

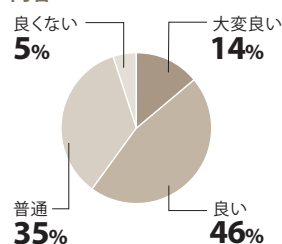
ベリーによる開国要求から一世紀半、日本は欧米諸国に追いつき追い越せと成長を続けてきましたが、もはや限界を迎えています。環境問題においても、生活レベル向上ばかりを追求するのではなく、東洋的な「足を知る」生活に目を向けていくべきではないでしょうか。価値観の転換期に差しかかっている今こそ、ステークホルダーのみならずとの対話を通じて、日本ユニシスグループのCSR—「ICTが人と社会にできること」のあり方を考え続け、実行に移していきたいと思えます。

日本ユニシス
CSR推進部 部長
多田 哲

わかりやすさ



内容



アンケート結果について

お客さまや社員を中心に“人の声”を前面に出した内容構成、および「読みやすい、わかりやすい、読んでみたい」報告書をめざすという編集方針については、多くの方々にご共感いただけたものと考えています。また、内容に関していただいたご意見については、CSR報告書2009の制作の参考にさせていただいているとともに、今後のより良い報告書づくりに役立てていきたいと思えます。